

令和 4 年 9 月 13 日現在

機関番号：15201

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2021

課題番号：19K00296

研究課題名（和文）近代山陰地域の文化教養環境における漢詩文の位置 若槻克堂と剪淞吟社の学際的研究

研究課題名（英文）The Position of Chinese Poetry in the Cultural Environment of the Modern San-in Region

研究代表者

要木 純一 (Yogi, Junichi)

島根大学・学術研究院人文社会科学系・教授

研究者番号：00230631

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：近代山陰地域における漢詩文学と地域政治史の研究を、中国文学と日本史学の学際的共同研究として進めることにより、漢詩及び漢詩結社が形成する人的ネットワークが、一方では山陰地域に全国的にも有力な漢詩結社である剪淞吟社を生み出すとともに、他方では克堂若槻礼次郎ら、中国宋代の士大夫層にも比定される官僚出身政治家をめぐる文化教養環境となることによって、政治的立場の違いを超えた人的文化的交流関係を形成していることを実証的に明らかにする。

研究成果の学術的意義や社会的意義

全国的にも有力な漢詩結社であった剪淞吟社の存する山陰地域を対象として、地域の文化教養環境の中で漢詩・漢学が占める位置を、文学と歴史学の学際的研究によって実証的に明らかにした。渡部寛一郎ら同社の漢詩人と、渡部に学んで多くの漢詩を詠んだ松江出身の総理大臣・克堂若槻礼次郎ら官僚出身政治家等が形成した地域の文化教養環境の実態と変化等を紹介し、政党政治期の人々の文化教養実態に占める漢詩の位置を究明した。忘れられかけた彼らの活動を顕彰して、世に知らしめることができた。

研究成果の概要（英文）：By the study of Chinese poetry literature and regional political history in the modern San-in region, we have revealed that (1) the human network formed by Chinese poetry and Chinese poetry associations gave rise to Senshoginsha, which is one of the most influential Chinese poetry societies in Japan, and (2) this human network made the cultural and educational environment surrounding bureaucrat politicians such as Wakatsuki Reijiro, which can be compared to the courtier class of the Sung dynasty in China, and (3) formed a human cultural exchange relationship that transcended differences in political positions.

研究分野：中国文学

キーワード：若槻礼次郎 渡部寛一郎 日本漢詩文 政党政治 山陰 近代

## 1. 研究開始当初の背景

近年、幕末明治以後の日本の近代化過程における漢学・漢詩文学の貢献について、中国文学における斎藤希史(『漢文脈と近代日本』2014年ほか)、日本史学における宮地正人(「一九世紀在村の儒者・漢学者達を考える」、『島根史学会会報』(53)2015年ほか)などにより再評価が進められている。儒教的合理性を身につけた知識人は、官界や教育・思想界で活躍し、江戸時代をはるかに凌駕するような漢詩文を創作・発表した。その結果、口語文学が勃興するまでの間、近代漢詩文は和文を圧倒するまでの盛行を見たことが共通理解になってきているのである。一方、中国では、近年日本漢詩の研究がブームとなっており、『全日本漢詩』の編纂も計画されている。しかし、日本ではこうした基礎的な文献の収集・整理は遅れており、とりわけ地方の漢詩資料の整理等の基本的な作業はほとんど着手すらされていない状況である。

## 2. 研究の目的

本研究は、近代日本における漢詩・漢学の再評価という近年の学界潮流にもかかわらず、なお研究が手薄な地方の実態を究明することを目的とする。その際、有力な漢詩結社であった剪淞吟社の存する山陰地域を対象とし、同社同人の漢詩人と、同じく漢詩文化の担い手であった官僚出身政治家の文化教養環境との関係を、文学と歴史学の学際的研究によって実証的に解明する。具体的には、剪松吟社第二代社長の渡部寛一郎と、渡部を漢詩・漢学の師と仰ぎ自身の後援会である克堂会会長に迎えた官僚出身政治家若槻礼次郎の「漢詩を媒介とする関係」の実証的分析を基礎に、山陰地域で形成された漢詩人ネットワークとその文学活動・政治活動の関連を究明する。

本研究は、近代日本漢詩の研究としては、近年の研究潮流に棹さすものであるが、そこでは地方における近代漢詩文化の実証的研究がなお少ないという研究状況に鑑み、入谷仙介博士がその全容を解明した剪淞吟社の本拠地である松江と山陰地域を対象とした研究をさらに推進することを試みるものである。また、従来の近代政治史研究が、政党政治史に偏しているとともに、政治文化や政治家ことに官僚出身の政治家が生み出される文化教養環境の研究に乏しいことに鑑み、漢詩文学の担い手という観点から、官僚出身政治家を再評価し、その文化的事績を明らかにすることを試みるものである。

## 3. 研究の方法

第一に、剪淞吟社関係の漢詩作品を島根県内外での調査により再確認するとともに、若槻礼次郎の漢詩作品など基礎的資料を調査・収集することにより、研究の資料的基盤を確立する。第二に、「近代山陰の漢詩作品データベース」の構築、「渡部寛一郎文書」の全点撮影と「渡部寛一郎文書目録」の作成、「渡部寛一郎日記」「若槻礼次郎書簡・漢詩作品」の翻刻・発表などにより、収集資料を研究組織で共有するとともに、これを公開する。第三に、研究の手薄な石見地域政治史史料の調査・分析を行い、松江地域と比較する。以上の研究を、「漢詩研究班」「政党政治史研究班」それぞれで遂行するとともに、定例の合同研究会による共同研究で成果を共有し、漢詩文化と政党政治の関係を究明する。

例会は、月一回。コロナ後は、Zoomで開いた。渡部寛一郎日記の翻刻に向けて、主にこの例会で、解読を進め、原稿まとめや校正を経て、『山陰研究』誌上等に発表する。また、年表、登場人物の簡単な履歴、社会背景等を注釈の形で、別個同誌上に発表する。若槻礼次郎や山陰漢詩人の漢詩集を、学生アルバイト等を用いて、データベース化し、人名索引等を行った、翻刻をまとめる。

## 4. 研究成果

(1) 渡部寛一郎文書中、本研究の史料基盤となる「渡部寛一郎日記」を順次翻刻し刊行した。

渡部寛一郎文書は、渡部寛一郎日記、剪淞吟社に結集する人々の漢詩と関連文書、若槻礼次郎ほかの渡部寛一郎宛書簡、私立中学校修道館など渡部寛一郎が関わった教育関係文書などで構成されている。中国文学・歴史学などの学際的研究によってこれらの諸文書を解読・分析し、近代日本の漢詩文学と政治文化の関連を山陰地域に即して実証的に追究した。

明治期に、彼が校長を務めた修道館中学の経営のために、主に東京で活動する様子が克明に記され、主に教育関係で、東京・東北・松江さらには松江で活動する様子が記されている。その間、各地の教育関係者はもちろん、若槻礼次郎を含む政治家・官僚との交流が示された。地方と中央との政治的人間関係形成を解明する一端となるであろう。

(2) 松江市に本拠をおく漢詩結社・剪松吟社の創立と展開を検討し、初期には知事・郡長等の地方官僚が、中等学校教員・弁護士等とともに重要な構成員であったことを確認した。また、政党関係では、憲政会関係者、憲政会系新聞「松陽新報」が剪松吟社と密接に関係していることを明らかにした。

剪淞吟社関係はもとより、若槻礼次郎の漢詩遺稿整理を通じて、まずは、漢詩人と官僚の交流関係が把握できるようになった。直接政治を論じた詩文も多数集められ、これらは今まで知られていなかった資料である。政党政治、軍部との関係、地方政治との関係の研究展開

が大いに期待される材料を学界に提供することができそうである。

(3) 若槻礼次郎とその漢詩・漢文の師である渡部寛一郎の信頼関係の基盤に漢詩があることを、「渡部寛一郎日記」および若槻礼次郎宛渡部寛一郎宛書簡とそこに書かれた漢詩をもとに明らかにした。

(4) 島根県における政党政治期の地域政治の展開過程を、各種選挙結果、若槻礼次郎を擁する憲政会の活動に焦点を当てて明らかにした。また、島根県における政党政治期(大正デモクラシー期)の地域政治の動向の研究史上の位置を確認するため、政党政治展開の歴史的前提となる自由民権運動期の松江と東京との関係を、松江出身の民権家である高橋基一の活動と思想に即して明らかにした。

(5) 要木は、剪湊吟社が設立されるより前の、主に明治初期山陰漢詩文の復刻、翻訳を次々に世に問うた。そのうち、訳注「出雲名勝摘要」及び訳注「風月小誌」は島根県でも忘れられていた漢詩人さらには歌人、俳人を顕彰している。

(6) この十年間の科研の成果として、報告書をまとめた。新規の論文も掲載して、関係機関に配布した。以下、この報告書に寄せた要木の前書き部分を引用することによって、本報告書の内容及び本科研の成果を示すことにしたい。

#### はじめに

島根大学山陰研究センターのプロジェクトとして、この十年、島根県の教育家であり、若槻礼次郎後援会会長であった渡部寛一郎の日記を読み続けている。憲政史上の若槻礼次郎の偉大さはいまでもないが、その特に島根県における具体的な政治活動、漢詩等の文化活動についてはあまり知られていない。渡部寛一郎文書の公開によって、はじめて、諸状況を理解することができたのである。この点について、まず、文書所蔵者原洋二氏のご厚意に感謝申し上げたい。

そして、竹永三男島根大学名誉教授によって、渡部寛一郎研究会が結成された。一人一人のお名前は記さないが、多くの会員によって、撮影や読解が進められている。私は専門外であったが、途中から呼ばれ、例会の主催など、主に事務的な仕事を仰せつかった。このあたりの経緯は、本報告書所収の竹永氏の文章をご覧ください。

幸い、科研費の助成を二度にわたって受けた。その成果として、本報告書が出版できた。私は形式的に代表を務めたに過ぎず、心苦しい限りであったが、この報告書によって、少しでも会員の努力に報い、さらに若槻礼次郎、渡部寛一郎の業績の顕彰ができれば幸いである。本報告書には、竹永三男島根大学名誉教授、大原俊二山陰研究センター客員研究員、杉谷直哉山陰研究センター客員研究員の三氏に、稿を寄せていただいた。竹永論文では渡部寛一郎文書の全貌とその注目すべき資料価値が具体的に紹介されている。大原論文では、若槻礼次郎も加わった明治以降の山陰漢詩壇の状況が把握できる。各詩人の事跡や人となりは、一般に言及されることはほとんどなく、本論文によってしかわからない事実がある。杉谷論文は、氏のライフワークである政党政治の地方における展開研究の原点となった渡部寛一郎文書の意義について原文を引用して詳細に説明している。

これらの論文以外に、山陰研究センター紀要に連載した渡部寛一郎日記や若槻礼次郎書簡をこの機会に資料集としてまとめた。この中で特筆すべきは、大國由美子山陰研究センター客員研究員による、渡部寛一郎日記の詳細な注である。群書を渉猟した大変な労作で、今後、歴史以外の諸分野でも利用されるに違いない。

本報告書は、会員諸氏以外にも、多くの人のご助力によって成立している。ここに感謝を申し上げる。

島根大学法文学部 要木純一

#### 目次

論文 横書(本報告書頁上部通し番号)	
渡部寛一郎文書の全体構成と主要文書 竹永 三男	1-11
渡部寛一郎文書と政党政治 杉谷 直哉	12-38
資料(「山陰研究」より転載)	
渡部寛一郎関係文書目録(一) 渡部寛一郎文書研究会	39-53
論文 縦書(本報告書頁上部通し番号)	
近代山陰の漢詩壇 大原 俊二	216-199
資料(「山陰研究」より転載)	
翻刻 渡部寛一郎宛若槻礼次郎書簡 渡部寛一郎文書研究会	198-177
翻刻 渡部寛一郎宛若槻礼次郎書簡(続) 同上	176-149
翻刻 渡部寛一郎日記 1(1897.2-4) 同上	148-129
翻刻 渡部寛一郎日記 2(1898・99) 同上	128-116
翻刻 渡部寛一郎日記 2 続(1898・99) 同上	115-105

翻刻 渡部寛一郎日記 3 (1905) 同上 104-90

注釈・索引(「山陰研究」より転載)

翻刻 渡部寛一郎日記 2 (1898 部分) 注釈 大國 由美子 89-74

翻刻 渡部寛一郎日記 2 (1899 部分他) 注釈 大國 由美子 73-56

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 竹永 三男	4. 巻 243
2. 論文標題 近現代の「行旅病人」「行旅死亡人」の内実と「行き倒れ」人数の男女差 法令・官報『行旅死亡 人公告』・関係統計の検討から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史科学	6. 最初と最後の頁 15-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹永 三男	4. 巻 235
2. 論文標題 戦前・戦時体制下の東京における「行き倒れ」の実態 「行旅病人」「木賃宿」「浮浪者」に関する調査の検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 部落問題研究	6. 最初と最後の頁 33-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 要木 純一	4. 巻 49
2. 論文標題 訳注『出雲名勝摘要』（七）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 島大言語文化	6. 最初と最後の頁 t1 - t21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 要木 純一	4. 巻 50
2. 論文標題 訳注『出雲名勝摘要』（八）・補注	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 島大言語文化	6. 最初と最後の頁 t1 - t20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡部寛一郎文書研究会	4. 巻 13
2. 論文標題 渡部寛一郎日記3	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 山陰研究	6. 最初と最後の頁 117-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森安 章	4. 巻 13
2. 論文標題 明治の村の政治状況－八束郡大庭村の事例	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 山陰研究	6. 最初と最後の頁 206-228
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 要木 純一 渡部寛一郎文書研究会	4. 巻 11
2. 論文標題 翻刻 渡部寛一郎日記2 (明治三十一年・三十二年)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 山陰研究	6. 最初と最後の頁 61 - 73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大國 由美子	4. 巻 11
2. 論文標題 渡部寛一郎日記2 (明治三十一年部分) 注釈	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 山陰研究	6. 最初と最後の頁 75 - 90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 竹永 三男	4. 巻 5
2. 論文標題 松江市史 通史編5 近現代	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 松江市史 通史編5 近現代	6. 最初と最後の頁 1-972
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 要木 純一	4. 巻 47-48
2. 論文標題 訳注『出雲名勝摘要』(六)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鳥大言語文化	6. 最初と最後の頁 t1 - t21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件(うち招待講演 2件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 板垣 貴志
2. 発表標題 「史料ネット活動の発展的継承と普遍的課題 歴史資料が価値あるものとされる社会とは」
3. 学会等名 第7回全国史料ネット研究交流集会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 要木 純一
2. 発表標題 近代松江における漢詩文化
3. 学会等名 相見香雨没後五〇年記念シンポジウム(山陰研究センター)(招待講演)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 要木純一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 今井書店	5. 総ページ数 135
3. 書名 訳注出雲名勝摘要 漢詩・和歌・俳諧による明治出雲旅行案内	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	板垣 貴志  (Itagaki Takashi)  (80588385)	島根大学・学術研究院人文社会科学系・准教授   (15201)	
研究 分担者	竹永 三男  (Takenaga Mitsuo)  (90144683)	島根大学・法文学部・客員研究員   (15201)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------